

数 学 科

報告者：新井 雄大

1 課 題

数学における読解力とは、与えられた問題文から必要な情報を読み取ることだけでなく、自分の考えを式やグラフ、図を用いて数学的に表現することである。本校の生徒は数学的な読解力に課題のある生徒の割合が高い。そのため、数学に苦手意識を持っている生が多く、数学を学ぶ意義や有用性を感じている生徒が少ない。

2 目 標

最初に数学の有用性を生徒に示していく。具体的には授業の中でどのようなところで数学が使われているかを話したり、レポート等を用いて生徒が自分で調べたりすることで数学の有用性を示していく。

また授業では自分の考えを式や図などを使って他者に分かりやすく伝える力を身に付けることを目指す。特に1年次3学期の授業では三角比を使った授業で他者への説明を積極的に取り入れていく。

3 具体的方策

問題を解いて解説を行うだけの授業ではなく、生徒が一人で考えたあとにペアやグループになって他の人に自分の考え方を式や図を使って説明する時間を設けることで、生徒が自分の考えを数学的に表現する時間を作る。また、自分の言葉で話すことによって、教員が解説するよりもより深い理解を促すことができた。

4 結 果

読解力の向上を目指した授業を意識することで生徒が主体的に授業に参加し、自ら進んで授業に取り組むことができていた。また、生徒同士で学び合うことを意識した授業を行うことで自分の考え方だけでなく、他者の考え方に触れることで、より深い理解を促すことができた。

5 次年度に向けての課題

読解力を意識した授業を行うことで、講義形式の授業よりも深い理解を促すことができた。今後はさらに数学の魅力を伝えることができるような授業を行っていくために、他の教科とも連携し、生徒が興味を持つことのできる授業を展開していく。今後も研究部の活動を通して生徒の読解力の向上に努めていく。